

第8回府中市文化芸術推進計画検討協議会会議録

1 日 時 令和7年10月14日（火）午後2時～午後4時5分

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階 打合せ室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員9名

小林真理委員（会長）、太平洋介委員（副会長）、小野一之委員、小林瑞恵委員、
新井有佐委員、玉村明日香委員、中村洋子委員、鹿島伸明委員、澤井すみ子委員

※ 橋本善八委員欠席

(2) 職員8名

矢ヶ崎文化スポーツ部長、平澤文化生涯学習課長、斎藤文化生涯学習課長補佐、
佐々木文化生涯学習課文化振興係長、中司主任、鵜久森事務職員、
江口ふるさと文化財課長、鎌田美術館副館長

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 会議次第

イ 資料1 第7回文化芸術推進計画検討協議会会議録（案）

ウ 資料2 次期文化芸術推進計画素案に対する意見対応シート

エ 資料3 次期府中市文化芸術推進計画素案

オ 資料4 次期府中市文化芸術推進計画案の答申（案）

カ 資料5 評価の考え方（ロジックモデル）

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 資料説明（事務局より）

第7回協議会の意見を資料2に整理

資料3「素案」の説明

資料4「答申（案）」の説明

資料5「評価の考え方（ロジックモデル）」の説明

5 審議事項

府中市文化芸術推進計画案の答申の検討

会長： 今回は最終回であるため、素案をまとめ、答申案を検討する。前回は推進体制が議論になったが、委員から推進体制のイメージ図について提案があった。

委員： 提案した図については、あくまで推進体制のイメージ図である。推進体制については、どのような人達が参加し、どのようなプロジェクトになるかを議論すべきであると考え、意図しない意味を含んでしまう矢印

をなくしてみた。

会長： 図にはそれほどこだわらず、内容をきちんと議論していこうという考えだと理解した。

資料の緑マーカーの部分が前回からの修正箇所だが、その部分でも全体を通してでも良いので意見をお願いしたい。

委員： 推進体制のイメージ図は、府中市と府中文化振興財団という一つの組織の中に市民が入っているように見えてしまう。見せ方に工夫がいるのではないか。

会長： どのような修正内容が良いのか。

委員： 計画書を制作するデザイナーに、市が意図するところを伝えることでより良い図にできると思うが、市と府中文化振興財団が同じ組織であるように見えるのは問題なので、区別できるようにするにはどのように描けば良いか検討が必要だ。

委員： 例えば、各主体の背景に白のぼかしを入れ、かつ、それぞれ違う文字色にすると、たくさんの人や団体が関わっているということが分かりやすくなるのではないか。

委員： 計画書を制作するデザイナーにより正確なイメージを伝えることができればその分クオリティーが上がるはずである。そのためにも貴重な意見である。

委員： 前回よりまとまってきている。文化芸術推進ネットワーク会議についても、具体的に何をするのか、どのように行政の事業を評価するのが書かれており、大枠は良い。会議を開催する前には、他自治体で同様の会議を運営したことがある経験者にアドバイスを貰うなど、意見を持ち寄って検討した方がうまくいくのではないか。

委員： 前回からブラッシュアップされている。推進体制のイメージや、様々な人を巻き込み、かつ、開かれた場所にするということが文章で明記されていて分かりやすい。推進体制のイメージ図では、協働というワードを使う時に矢印を使いがちなので、矢印を取り払ったことは新たな発見だった。分かりやすくなっている。

委員： 推進体制のイメージ図については、他の委員の指摘のように、市と府中文化振興財団がつながって見えることが気になる。そこをうまく表せると良い。

委員： 市民に向けて作るという前提であれば、これでは、どこで何をやって、どのようなことをこの体制で推進するのかということが伝わらないのではないか。この8年間の中で施設の統合も考えられるが、少なくともこの表の中でどの施設が何をやっているのか分かるようにした方が良い。図に記載されている「市民活動」は何を指しているのか。

委員： イメージ図は、前回の検討協議会資料の図に国際交流と観光振興を追加した。福祉もあるが、数を増やさないように5つにまとめている。

会長： 図の中の要素の説明は次のページにある。

委員： 先ほどの発言の意図は、府中市が直営で運営している施設を記載した方が良いという趣旨だ。府中文化振興財団が運営を委託されている施設

については、市は、お金は出すが指示は出せないのではないかと仮説を立てている。そうであるならば、男女共同参画センター「フューラル」や生涯学習センターを計画に入れるべきであり、代表的な物だけでも記載した方が良い。

また、令和7年度社会教育（学習）関係団体登録一覧によると登録団体数は606となっているが、このことが次期文化芸術推進計画を見た新しい市民に伝わるのだろうか。

会長： 図に記載されている「市民活動」の具体的な内容は次ページの表で説明されている。また、社会教育（学習）関係団体については、活動内容等をまとめた冊子を毎年作成している自治体もある。その自治体では、全戸配布ではないが、設置している施設に行けば閲覧でき、参加したい人が参加する。府中市はどうか。

事務局： 団体の活動内容、頻度、場所などを記載した表を作成している。

会長： 作成しているのであれば、そこにアクセスできる仕組みがあれば良い。この計画に全部を載せるのは難しい。

委員： 市民活動の施設はどこになるのか。

事務局： 市民活動センタープラッツや文化センターなどがある。

委員： それを入れてはどうか。

会長： 市民活動センタープラッツは記載されているが、これでは駄目なのか。

委員： 29ページには「市民活動団体等」と書かれており、28ページには「市民活動」と書かれている。

委員： ぱっと見た時に分かりやすいように、28ページの図では「など」を削除した。

会長： 厳密に対応させるのではなく、あくまでイメージ図として作成したということだ。

委員： 中身のことを言いたい。素人が見て、市民活動はどの施設でやっているのか分かるようにしたい。

委員： 図の中に番号を振って次ページの表で説明するようにしたり、図の下に主要な施設を入れることもできると思う。だが、そうすると図が複雑になってしまう。そのため、大枠なイメージ図であるという前提で要素を挙げた。

会長： ここまでの発言は、イメージとして明確にするために29ページの表と同じ記載にした方が良いという意見と、簡易な図にした方が推進体制について市民の理解が進むのではないかという意見だと理解した。どちらの方向性にするかは検討が必要だ。

委員： 28ページの8行目に「文化芸術に関わる多種多様な主体が更に交流・連携し」とあるが、そこに「多種多様な主体をメンバーとして」のように、「メンバー」という表現を入れることで、参加型であることが強調できるのではないか。

イメージ図についてだが、今後、福祉はボーダレスになっていき、市民の中に含まれるようになるのではないかと考え、福祉という要素は取って図の中に入れなかった。

また、表の中で「市内企業」という表現が気になった。「産業」にしたほうが良いのではないか。早くからネットワーク会議に様々な分野の産業が参画することで重要な役割を果たすと考えるため、市内企業に限定せず、広く「産業」とした方が良いのではないか。

副会長： 洗練されたものになっている。

28ページの図と29ページの表に主体としての市民の記載があるが、市民というのはとても大きな範囲であり、言うなれば全員が市民であるわけなので、図と表から取ってしまっても良いのではないか。

29ページの府中市の「役割・動き」欄1行目の「文化振興、文化財、美術館」という並びは違和感がある。

30ページの府中市文化芸術推進ネットワーク会議と連携した進捗管理は良い案だと感じた。

31ページの「ロジックモデル」「アウトプット」「アウトカム」「インパクト」には注釈が必要だ。

委員： イメージ図における府中文化振興財団の位置付けについては、前回の意見が反映されている。

13ページのバリアフリー化という言葉は、ユニバーサルデザイン化が良いのではないか。バリアフリーだと身体関係のバリアだけに限定されるが、ユニバーサルデザインであればマイノリティーの方々にとってアクセスが良い方法という意味になる。ユニバーサルデザイン化の方が適切だ。

会長： 大学においてバリアフリーという言葉は、身体的なバリアだけでなく精神的なバリアも含む広い意味で用いられている。一方、ユニバーサルデザインは身体的な側面に限定されるイメージが強い。現在は、身体的なバリアのみならず精神的なバリアを取り除こうとする段階に入っており、この動向を踏まえた対応が必要である。新しい公共施設ではハード面でのバリアフリー化は進んでいるが、それでも精神的なバリアが残っており、障害者文化芸術活動推進法や障害者差別解消法が制定されてからは、その解消に向けた取組が強化されていると感じている。このことを適切に伝えられると良い。

委員： ユニバーサルミュージアムという言葉があり、身体的なもの以外に、外国人も含めて、より広くアクセスできる施設づくりを行っており、その用語の印象で話した。

会長： 本当はユニバーサルという言葉がふさわしいかもしれないので、今の時代に合わせた言葉を考える必要はある。

推進体制のイメージ図は、一見した際に市域を表しているのか、役所の担当としての府中市なのかが分からない。例えば、行政や担当課を示す表現であれば分かりやすいのではないか。前の図にあった矢印の有無は重要ではないが、下支えやインフラをイメージさせる図の方が良いのではないか。環境整備は市が担うものであり、具体的に動くときには様々な人と連携する必要がある。この計画では、芸術家を個人として扱うのか、組織として扱うのか。個別の団体を強調し過ぎず、文化・芸術をや

っている人というふうに大まかに設定して、そういった人々をつないでいくというイメージの方が、実効性が高くなるのではないかと。ただし、そうすると主体のメンバー構成を生かせない懸念がある。あくまでイメージとして示す方が良いのではないかと。

「府中市文化芸術推進ネットワーク会議（仮称）」とし、名称は今後の会議で決める案は良い。ネットワーク会議には行政と府中文化振興財団が参加するため、両者を別に記載するのであれば、市と財団が対等な立場であることを明確にした方が良い。市がすべて管理するわけではなく、財団がただ手足となって動くわけでもないことが明確に示せると良い。

29ページの府中市の説明は、現状の所管とこの計画で扱う行政分野を記載しているが、急に美術館という具体的な施設が記載されており、違和感がある。「文化振興と文化財」や「文化や芸術を担当している課」が良いか。あるいは「文化・芸術」だけでも良いかもしれない。ここは整理が必要だ。担当課の名称は変更される可能性があるため、計画の領域を示しておきたいということだと思う。主要な担当課とまちづくり等の担当課が、行政の中でネットワークを構築して計画を推進していきたいと考えていることを分かりやすく明示できないか。様々な市民が文化芸術でつながり、市を豊かにすることが目標としてある。庁内でも文化芸術の担当課だけで進めるのではなく、他課と連携する必要があることを表の中で示せると良い。

委員： 31ページで「基本施策別及び計画全体の指標」が掲げられているが、この数値はどのように把握するのか。特に、基本施策2の指標はどうするのか。

事務局： 文化芸術推進計画の上位計画である府中市総合計画の進捗を計るために行っている市民アンケートを使ってこの指標を把握する予定だ。無作為抽出された18才以上の市民の中で18歳未満の子どもがいる方に限定した設問になる。

会長： 基本施策2の進捗状況を測る指標が、文化芸術関係のクラブ活動や習い事等をしている18才未満の子どもがいる市民の割合が良いのか。他にアンケートで把握できる良い指標があれば変更した方が良い。「子どもが文化活動に参加しているか」ではどうか。

委員： 「クラブ活動や習い事等をしているか」という設問は局所的である。より広く、市のイベントや市民団体による文化活動への参加などを含めて、文化との接点を多角的に把握した方が良いのではないかと。局所的な割合を把握しても意味がない。文化に触れたかどうかという観点の方が、市としては色々なレベルでの参加状況を把握できて良いのではないかと。

委員： 庁内の連携が重要というのはそのとおりだ。29ページの「文化振興、文化財、美術館」という記載は、再検討した方が良い。

28ページの図については、詳細を記載するとかえって分かりづらくなる。次ページに詳細な説明があるので、図はざっくりとしたイメージとして、皆で文化に関わる未来や希望感が伝わるものであれば良い。

めざす姿を実現する府中市文化芸術推進ネットワーク会議は、どうい

う風に色々な方に参加してもらうのがキーになってくる。今は市と府中文化振興財団が主軸になっている印象がある。本当は市民側からやりたいことや情報共有の動きが出てくるのが望ましい。まだ広まっていない情報等が会議を通じて広報され、それによって生まれた市民の動きを市や府中文化振興財団がバックアップする形の方が市民活動を促すことになるのではないか。

市民が中心となって自分達のやりたい活動を広めることで市が豊かになり、他市からも参加や関心を得られるようになることが、この協議会で議論した内容だろう。この基本的な思いがこの計画に記載されているのか。

会長： 市長挨拶の部分に、今回の計画策定に当たって重視した思いを込めることも考えられる。法律でも前文に思いが込められている。作られた背景や意義が分かる形にしておくことが重要だ。

推進体制については、図にするとイメージが固定化される懸念があるため削除する案もあるが、図をなくして文章だけにするとイメージしづらい。

委員： これまでの議論をまとめたものが、4つの基本施策になっている。文化活動が市全域に波及し、新しい物ができていく道筋を話し合ったという点が重要であり、今後はネットワーク会議に引き継がれることになる。固くならず、コーディネーター等と連携しながら様々な主体が参加するようになる面白くないことができるのではないか。この協議会から府中市文化芸術推進ネットワーク会議へのバトンタッチを記載できると良い。

委員： 28ページの冒頭で「市民協働都市宣言」について触れているが、文化芸術の推進に当たっては市と府中文化振興財団が軸になるとはいえ、協働の観点から言えば、本来はどの主体も対等な立場であることが望ましい。

会長： 本来、協働はそういう意味だ。

委員： 協働の理念を表現するのはなかなか難しい。

31ページの「はぐくむ」の指標については、クラブ活動や習い事に加え、市内の文化芸術のイベントや活動に子どもが関わる機会を提供する団体もあるため、クラブ活動に限定せず、文化に触れたかどうかというレベルの設問が良いのではないか。

委員： 31ページの②の指標は基本施策ごとに分けなくても良いのではないか。基本施策2以外の指標は、どの施策の指標であってもおかしくない。基本施策の1から4に対応させず、並列で聞く方法もある。

基本施策2の指標は、18才未満の子どもがいる割合をまず把握してから、文化芸術活動をした子どもの割合を把握する必要がある。18才未満の子どもがいる割合が示されなければこの指標は分からない。その辺りも詳細に把握するのか。

また、基本施策1の指標を「1年間のうちに文化芸術活動を行った市民の割合」としているが、文化芸術活動を行ったという認識は個人差が大きく、活動していても自覚がない場合もあるため、文化芸術活動の定

義が難しい。

参加や参観の違いが分かりにくいいため、基本施策3の指標と基本施策1の指標との区別が難しい。

「つむぐ」は、文化財・伝統文化だけでなく、他分野への親しみも聞いても良い。

また、計画全体の指標である「文化芸術に触れることで、生活にうるおいが得られていると感じる市民の割合」は、幸福度の定義が曖昧であり、文化活動ができていても生活状況によって影響を受けるおそれがあり、難しいのではないかと。

全体として、どうにでも取れる設問が多いと感じた。

会長： これは、学術調査のように厳密な数字を求めているわけではなく、行政が実施した様々な施策を市民がどのように受け止めているかを把握することが目的だ。今後は、指標について調査を行い、進捗管理の数字として活用することになるため、この指標で良いのかを検討する必要がある。指標の設問内容が重複しているという指摘はそのとおりだが、基本施策に対応するように設定した方が、後の評価がしやすいのではないかと。

委員： 31ページには「市民の幸福度」や「文化芸術に触れることで生活にうるおいを感じる市民の割合」と記載しているが、この市民の中には経済的に厳しい家庭の子どもも含まれていることを計画に明記すべきだ。

会長： 経済的な問題を抱えている方々も含めて文化的権利を保障していくという前提で、本審議会でも議論を進めてきたと認識しているが、これを強調するのであれば、「1. 策定の背景」に記載する方が良いのではないかと。

委員： 文化活動に取り組む団体や市民の実情、支援要望の把握については、何も決議していない。この点については過去の協議会でも問題提起したが、その意見はどこに反映されたのか。

事務局： 市民ニーズや団体ニーズに関する調査については、第1回検討協議会で実施内容を報告し、第2回検討協議会でその結果を報告した。これらの調査結果から明らかになった要望や不足している点を現状と課題として計画の中で整理し、各施策をブラッシュアップしてきた。

例えば、調査結果から、各団体との連携不足という課題を把握したため、新たな会議体を設置し、団体間の連携を推進することにした。また、後継者や担い手の確保に課題を抱えている団体が多いため、支援を強化することにした。今後8年間でこれらの課題を解消していくことが、市としての回答であると考えている。

会長： これから次期文化芸術推進計画が策定され、その計画に基づいて様々な施策が実施される。行った施策がどのように受け止められているかを把握するための指標が31ページの指標である。この指標はこれから調査していくものであり、調査方法は、文化芸術分野に限らず全庁的な施策に対して毎年実施されてきた市民アンケートを利用するということだ。

委員： 令和8年3月までは現行計画が動いていて、その状況判断として実施したアンケート結果を基に次期文化芸術推進計画を策定したということか。それであれば、29ページの活動主体・関係機関の「期待される役

割」という表現が気になる。これは、イノベーションなのか、チャレンジなのか。

事務局： 両方の期待を含めている。これまでやってきたものをもっと拡大してやっていきたいというチャレンジでもあるし、新しい分野のイベントや舞台にも取り組んでほしいという意味ではイノベーションでもある。

委員： 現行計画を基に8年間取り組んできた成果が分からないまま話が進んでいる印象だ。

会長： 府中文化振興財団が実施してきた取組を含め、どのような成果があったのかについては、主に第3回までの検討協議会において確認してきたところである。また、平成30年度から実施してきた施策の評価については、3ページに記載している。

確かに、計画を進めながら次期計画案の作成作業を進めてきたため、最終年度である令和7年度については評価が行われておらず、その点に積み残しが生じている可能性はある。しかし、計画期間の最終年度終了後に作成作業を開始しては間に合わないため、計画期間満了前から次期計画の検討・作成を進めることはやむを得ない対応である。最終年度の成果については、年度終了後に評価を行い、今後の計画や施策に反映していくことになるだろう。

委員： 30ページの進捗管理については、タイトルを「進捗管理方法」とした方が良い。

また、府中市文化芸術推進ネットワーク会議のメンバーはどのように選定していくのか。第1回目は、市が選定したメンバーで開催することになると思うが、第2回目以降はどのような仕組みとするのか。内容に興味があれば誰でも参加できるのか、あるいはエントリー制とし、その中から市が定めた基準に照らして選定するのか。運営方法についてイメージを持っておきたい。今後、この取組が進展していくのであれば、担当部署についても明確にしていく必要がある。こうした仕組みも含めて、構想を膨らませても良いのではないか。

今回、検討協議会に参加し、様々な気づきがあったことから、一人でも多くの方に府中市文化芸術推進ネットワーク会議に参画してほしいと考えているが、実際には参加者数に限りがあるのではないか。

会長： 選ばれた人だけが参加する仕組みを想定しているわけではないと認識している。だからこそ、参加者の管理が難しくなり、結果として参加する人がある程度限られてしまうと考えられる。過去の検討協議会では同様の取組を行った自治体の先行事例も紹介された。

委員： 各委員がイメージする府中市文化芸術推進ネットワーク会議は、それぞれ異なると思われる。より踏み込んだ具体性がないと、一歩前に進んだことが伝わらないのではないか。例えば、府中市文化芸術推進ネットワーク会議を担当する部署の問合せ先を記載するなど、ちょっとしたことであっても、何らかの形で前進しているという印象を与えるためには必要であると考えます。

事務局： この検討協議会のような附属機関ではなく、メンバーを固定せず、必

ずしも出席を求めるものではない。回を重ねる中で参加者が増えていくことを期待しており、そのため「開かれた場」と表現している。

第1回は認知度が低いため、市から声掛けを行うことになると思うが、第2回以降は口コミなどにより、過去の参加者が知人等を誘い、情報交換を行う場としていきたい。

参加者のハンドリングが難しい点は認識しており、先行事例では、市に意見を述べるだけの場になってしまったという課題があったと聞いている。どのように運営すべきかについては、現段階では具体的に記載できない状況にある。ロードマップについても明確化が難しく、抽象的な書き方をせざるを得ない。

会長： だからこそ、事業として一度取り組んでみるという位置付けにしているところだ。

この府中市文化芸術推進ネットワーク会議の取組は、今回の計画の大きな特色となる部分である。限られた者が決めた計画を上から押し付けるやり方では文化芸術は広がっていかないという点は、この検討協議会の共通認識である。したがって、今回、上意下達ではない新たな手法に取り組もうとしており、その意図を適切に伝えていきたい。

例えば、「つむぐ」「つなぐ」といった指標において、この府中市文化芸術推進ネットワーク会議の認知度を問う設問を設ければ、初年度は0%であったとしても、毎年増加していけば、市民同士のつながりの広がりを確認することができる。また、文化芸術に関するアンケートを数年後に実施し、「府中市文化芸術推進ネットワーク会議に参加したことがあるか」といった設問を通じて市民のつながりの状況が可視化されれば、次の目標設定にもつなげることができる。

府中市のように、市民の文化レベルが高い自治体においては、市民の参加を後押しする姿勢を明確に示すことが望ましい。また、経済的に厳しい状況にある子どもであっても、文化芸術活動に触れることで自らの可能性を広げることができるかもしれない。こうした広い視点を持つことが、今回の文化芸術推進計画で重視したポイントである。

行政が事業を提供するだけでは、もはや十分ではない。そのため、市民が主体的に活動しやすい環境を整える必要があり、その意図を計画に記載している。文化財保護など、これまで取り組んできた事業も非常に重要であり、今後も継続していかなければならない。その一方で、この計画において新たに取り組みたいのは、主体的に活動したい市民を支援することや、課題を抱えた人たちが文化芸術に触れることで課題解決の糸口を得られるようにすることである。そのために府中市文化芸術推進ネットワーク会議を立ち上げることが、この計画の重要な要素である。例えば、市長のあいさつの中でこの点を明示しておけば、文化芸術基本法の改正により文化芸術の対象分野が広がっていることを示すことができる。その一言によって、この計画の印象や方向性が明確になると考えるため、事務局において検討してほしい。

委員： 各委員が府中市文化芸術推進ネットワーク会議に対して抱いている思

いには、多少のずれがあるかもしれないが、これまで議論してきたように、府中市をより良くしていくことが主眼である。その内容をどのように表現するかが論点になっていると考えるが、多くの市民に参加していただくためのフックについては、第1回府中市文化芸術推進ネットワーク会議の参加者が検討していけば良いと考える。

また、この検討協議会で議論された内容については、府中市文化芸術推進ネットワーク会議にしっかりと引き継いでほしい。これを答申に盛り込むことを提案したい。

府中市文化芸術推進ネットワーク会議における行政の施策への評価と、多様な意見を出し合う取組をどのように両立させていくかは現時点で明確ではないため、これから更にブラッシュアップしていく必要がある。市民の側から自発的な動きが生まれてくれば、連携も進んでいくだろう。最終的には、市の広報等を通じて周知を図り、参加しやすい環境を整えた上で、議論やアンケートを行っていくことになる。ただし、どこかの段階で主要メンバーによるPDCAを行うことも必要である。

次につなげたいことや、今後8年間で府中市がどのように変わっていくのかをしっかりと伝えたい。そのためには、市長のあいさつ文に盛り込む方法も考えられるが、多様なフックを用意していく必要がある。

会長： 30ページについても、「新しく」など、今回初めて取り組む内容であることが分かる表現があると良いのではないか。また、市長の挨拶文にも、この計画において文化芸術を更に推進していくための新たな取組を位置付けた、いわば目玉となる施策であることを記載した方が良い。

基本的な方向性については、従来どおり取り組むべき事柄であるが、府中市文化芸術推進ネットワーク会議は挑戦的な要素を含む新たな取組であるため、その点を表現していきたい。

副会長： この検討協議会の委員であると同時に、文化芸術推進計画の内容を実現していく立場でもあるため、非常に悩ましい部分もあるが、この点について特段の意見はない。

委員： この計画を通して読んでみると、新しい計画であるという印象を受ける。ポイントは、サードプレイス、ネットワーク化、シビックプライド、レジリエンスの4点ではないか。新しいカタカナ用語を使用することの可否は別として、今回の計画では、これらの新しい言葉を使うことによって計画の新しさが浮かび上がってくるのではないか。

ユニバーサルデザインやサードプレイス化によって文化の入口を広げ、市民と共有することで、シビックプライドにつなげようという流れが見える。ここでいうシビックプライドは、固定的な概念ではなく、市民それぞれの幸福感にもつながるような捉え方で良いだろう。

また、非常時にはレジリエンスの観点から災害と上手く付き合うことも文化である。こうした一連の流れが、今回の計画の中でより明確に位置付けられたのではないか。

会長： 次は答申案について意見をいただきたい。この答申案は、素案と共に市長に渡すものである。本日の議論を踏まえ、もう少し修正が必要だと

考えている。

委員： 最後の2行の意味が分からない。

会長： 計画を策定するのはあくまでも行政である。検討協議会において計画案を作成したことから、行政のトップである市長に対し、この案を基に計画を策定し、文化を推進してほしいという趣旨である。

事務局： 市長からの諮問を受け、委員の皆様にご議論いただき、計画案ができた。この計画案を答申として市長に提出していただくことになる。市としては、この素案を基に計画を策定し、市長挨拶等を加えた上で市民に対して公表する予定である。

委員： 6行目の「読み取れる、」の「、」はなくても良いのではないか。

会長： 最後の行は、「文化施策の推進」ではなく、「文化芸術の推進」として、広がりを持たせた方が良いのではないか。基本的には、文化芸術を推進することによって、みんなで豊かになりましょうという趣旨であり、計画名とも整合する表現にしてはどうか。事務局で検討してほしい。

素案及び答申案については、今回の議論を踏まえて、いくつか修正する必要がある。答申までの期間が短いため、修正対応については私に一任してもらいたい。よろしいか。

一 同： 異議なし。

6 閉会

- (1) 文化スポーツ部長あいさつ
- (2) 会長あいさつ
- (3) その他

答申及びパブリック・コメントの日程を報告した。